

平成27年第4回伊仙町議会臨時会議事日程（第1号）

平成27年11月5日（木曜日） 午前10時 開議

1. 議事日程（第1号）

○開会の宣言

○開議の宣言

○日程第1 会議録署名議員の指名

○日程第2 会期の決定

○日程第3 議案第60号 平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）（提案理由説明～質疑～討論～採決）

1. 出席議員（13名）

議席番号	氏名	議席番号	氏名
1番	平博人君	2番	岡林剛也君
3番	牧徳久君	4番	上木千恵造君
5番	美山保君	6番	永田誠君
7番	福留達也君	8番	前徹志君
9番	明石秀雄君	10番	樺山一君
11番	永岡良一君	13番	琉理人君
14番	美島盛秀君		

1. 欠席議員（1名）

12番 伊藤一弘君

1. 職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議会事務局長 佐平勝秀君 事務局書記 荻田恭平君

1. 説明のため出席した者の職氏名

職名	氏名	職名	氏名
町長	大久保明君	副町長	—
総務課長	樺山誠君	企画課長	池田俊博君
税務課長	當吉郎君	町民生活課長	伊藤勝徳君
保健福祉課長	松田一郎君	経済課長	上木義一君
建設課長	中熊俊也君	耕地課長	穂浩一君
環境課長	美延治郷君	水道課長	喜昭也君
農委事務局長	勇元孝治君	教育長	直章一郎君
教委総務課長	仲島正敏君	社会教育課長	明勝良君
学給センター所長	永島均君	ほーらい館長	仲武美君
総務課長補佐兼選管書記長	田島輝久君		

△開 会（開議） 午前10時00分

○議長（琉 理人君）

ただいまから平成27年第4回伊仙町議会臨時会を開会します。
これから本日の会議を開きます。

△ 日程第1 会議録署名議員の指名

○議長（琉 理人君）

日程第1 会議録署名議員の指名をします。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって、牧 徳久君、上木千恵造君、予備署名議員を、美山 保君、永田誠君を指名します。

△ 日程第2 会期の決定

○議長（琉 理人君）

日程第2 会期の決定について議題とします。

お諮りします。本臨時会の会期は、本日11月5日の1日間としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。

したがって、本臨時会の会期は、本日11月5日、1日間と決定しました。

△ 日程第3 議案第60号 平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）

○議長（琉 理人君）

日程第3 議案第60号、平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）を議題とします。
提案理由の説明を求めます。

○町長（大久保明君）

提案理由の説明をいたします。

平成27年第4回伊仙町議会臨時会で提案いたしました議案第60号について、提案理由の説明をいたします。

第60号は、平成27年度伊仙町一般会計の既定の予算に変更が生じたので、地方自治法第218条第1項の規定により提案しております。

ご審議賜りますよう、よろしくお願いいたします。

○議長（琉 理人君）

補足説明を求めます。

○総務課長（樺山 誠君）

補足説明いたします。

議案第60号、平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）について、補足説明をいたします。

既定の歳入歳出予算の総額59億3,256万9,000円に、歳入歳出それぞれ4,977万3,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を59億8,234万2,000円とするものでございます。

4 ページをお開きください。歳入歳出補正予算、事項別明細書の歳入からご説明をいたします。

9 款地方交付税、補正前の額29億7,662万円に3万1,000円を増額補正し、29億7,665万1,000円とするものでございます。

13 款国庫支出金、補正前の額6億1,986万4,000円に4,974万2,000円を増額補正し、6億6,960万6,000円とするものでございます。主な理由といたしましては、地方創生事業交付金の増額によるものでございます。

歳入合計、補正前の額59億3,256万9,000円に4,977万3,000円を増額補正し、59億8,234万2,000円とするものでございます。

5 ページをお開きください。歳出についてご説明をいたします。

1 款議会費、補正前の額9,385万9,000円に90万3,000円を増額補正し、9,476万2,000円とするものです。主な理由といたしましては、旅費の増額によるものでございます。

2 款総務費、補正前の額12億1,342万9,000円に4,312万5,000円を増額補正し、12億5,655万4,000円とするものでございます。主な理由といたしましては、離島版C C R Cの推進による地方創生交付金事業の新規採択による増額でございます。

3 款民生費、補正前の額13億5,118万円に175万1,000円を増額補正し、13億5,293万1,000円とするものでございます。主な理由といたしましては、人事異動に伴う給料並びに職員手当の増額によるものでございます。

4 款衛生費、補正前の額5億8,045万7,000円に172万3,000円を増額補正し、5億8,218万円とするものでございます。主な理由といたしましては、先ほどのとおり人事異動に伴う給料並びに職員手当の増額によるものでございます。

5 款農林水産費、補正前の額6億620万5,000円に372万4,000円を増額補正し、6億992万9,000円とするものです。主な理由といたしましては、人事異動に伴う給料並びに職員手当の増額でございます。

7 款土木費、補正前の額3億5,354万3,000円に552万3,000円を増額補正し、3億5,906万6,000円とするものです。人事異動に伴う給料並びに職員手当の増額でございます。

9 款教育費、補正前の額3億8,849万6,000円に697万6,000円を減額補正し、3億8,152万円とするものです。主な理由といたしましては、人事異動に伴う給料並びに職員手当の減額によるものでございます。

歳出合計、補正前の額59億3,256万9,000円に4,977万3,000円を増額補正し、59億8,234万2,000円と

するものでございます。

ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。

以上で補足説明を終わります。

○議長（琉 理人君）

これから議案第60号について質疑を行います。質疑ありませんか。

○14番（美島盛秀君）

平成27年度第4回伊仙町臨時議会において、平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）について、質疑をいたします。

7ページ、歳出の款14、離島版C C R Cの推進による地方創生交付金事業について、質問をいたします。

節の13、それから18、委託料の4,032万2,000円と、それから18の800万、あわせて質疑をいたします。

まず、この委託料についてですけれども、離島版C C R C推進のための委託料、これは恐らくコンサル業務の予算だと思えますけれども、議会の特別委員会で報告のあった資料をもとに質問をいたしますけれども、まず、伊仙町の総合戦略、ヘルスリゾートアイランド構想と子宝健康長寿そして教育という総合的戦略があるわけですが、そのなかで、この予算はこういう総合戦略に向けての総合的な計画をコンサル業務に委託するということかと思えますけれども、今回のこの予算の中で私が見てみますと、議会の特別委員会の報告で9項目の指摘事項があります。

この指摘事項について、それぞれのプロジェクトチームが立ち上げられていると思いますが、その内容について創生本部に提出されていると思えますけれども、その内容について、1から9項目ありますけれども、その内容について説明ができれば担当の課で一つ一つお願いを、まずお尋ねをいたします。

○議長（琉 理人君）

14番、美島議員に申し上げます。

先ほどの款項目の「款14」とおっしゃいましたが、「目14」の訂正と、それから今の9項目については、まだ上げてないということですので、質疑をまたかえていただきたいと思えます。

○14番（美島盛秀君）

それじゃ、早急に各担当で、この9項目についてはどういうふうな対応、対策をしているのか、議論をして、早急に議会に報告ができるようお願いをいたしておきます。

この伊仙町の総合戦略、ヘルスリゾートアイランド構想と子宝健康長寿、そして教育ということに対して、総合戦略に対して、その一部の、私はこのコンサル業務委託だと思えますけれども、そのスケジュールの中で、9月、それから10月、それぞれ本部長、町長、副町長、教育長、この下に各課の担当がいるわけですが、町長が要綱で有識者を決めております。

その有識者の意見等をどのように聞いてまとめているのか、そのまとめが9月、10月に予定され

て行われたはずですがけれども、その有識者がどのような意見をなされたのか、まずお尋ねをいたします。

○企画課長（池田俊博君）

平成27年9月25日の14時から17時までに伊仙町の総合戦略の推進会議がございまして、その中で有識者の方々と、商工会とかJA関係の方々にも参加いただいて、会議録のほうは作成してございます。

中身のほうでは、有識者の方で伊仙町が2040年には人口が3分の2になるというような試算があると。

その中でどのようなことをして人口を維持できるか、またコンパクトシティーについても、まちづくりの構想がセットになっていないとだめで、働けるときに突然来られてもマッチングしないとか、そういうふうな意見等がございました。

また、それをこれからプロジェクトチームのほうでもんでいながら、総合戦略のほうを策定していきたいと思っております。

○14番（美島盛秀君）

この国のまち・ひと・しごと総合戦略の中で、やはり地域の活性化ということが重点になると思いますけれども、今の伊仙町の有識者会議、名簿を見ても、今言った産官学金労というようにいろんな分野から出ているようでありまして、私はよく考えるのは、これはヘルスリゾートアイランド構想と子宝健康長寿、そして教育、この一番今般的なものは何かということを考える有識者だと思います。

その中で一番何が大事かというのは、やはり私は農業だと思います。

徳之島は農業の島だという思いがありますし、特に伊仙町も農業ということが中心になろうかと思っておりますので、その伊仙町総合戦略有識者会議名簿の中に南西糖業は入っております。

私はこの中に、農業委員会、あるいは駐在員会、あるいは各農業団体のように、よくこの農業に精通した人たち、そういう人たちの意見を聞いてやるのが、私はこの総合戦略の意義があると思っておりますので、名簿に12、3人いますけれども、その中に、さらに農業委員会とか、あるいは西部、中部、東部でもいいでしょう。

あるいは畜産でもいいでしょう、サトウキビもいいでしょう。

そういう優良農家といいたいでしょうか、そういう有識者、農業に精通した、そういう人をこの名簿につけ加えて、今後の総合戦略に生かしていただきたいと思っておりますけれども、そういう考えはあるのかなのか、またできるのかできないのか、まずお尋ねをいたします。

○企画課長（池田俊博君）

ただいまの質問でございまして、経済課のほうにおいては、農業農村整備で町のほうの計画も策定して、月1回ずつあたりのそういうような会合等もやっていると聞いておりますので、その中で出てきた関係の戦略とかそういうのを、この地方創生のここに反映できるような形ができればよろ

しいかと思えます。

また、おっしゃるように、関係者をまたここに追加してするというのも、また考えていかなければならないということもありますが、いかんせん12月までという作成する期間がありますので、そこでこれからまた協議しながらできるような体制ができればいいと思っていますので、また協議していきたいと思えます。

○14番（美島盛秀君）

ぜひこれは、伊仙町の将来、未来永劫にこの伊仙町を占う計画でもありますし、事業でもあります。大事業だと私は考えておりますので、ぜひそういう伊仙町を網羅したオール伊仙町で考えていくという気持ちをお願いします。

ただ執行部を中心に、あるいは行政からの押しつけのことじゃなくて、町民の目線でこの会議も進めて、意見を聴取していただきたいと思っております。

その中で、平成26年度、27年度のまちづくり座談会等で意見要望が出されておりますけれども、26年度に、まずこの地方創生に関するいろいろ説明等も、財政面から見た見通し等々も説明をされております。その中でいろんな意見等も、アンケート調査等もやっております。

こういうことをしっかりと認識をしてやっていくのが、今回のこの会議だと思っておりますので、10年後、20年後だけじゃなくて、お互いの子や孫、50年、100年後の伊仙町を見通した総合戦略にして、できればなと思っておりますので、ぜひ検討をしていただきたいと思えます。

○総務課長（樺山 誠君）

先ほどの企画課長の答弁に補足をしてまいりたいと思えますけども、今、美島議員がおっしゃったように、伊仙町を網羅すると。

昨日、本町の駐在員会がございまして、駐在員会の駐在委員の方たちとの意見交換、この地方創生をどうしていくか、集落の強化をどうしていくかという意見交換は終わっております。

あとは教育委員会部局、農業関係、あるいは青年用だとか、あるいは地域女性連だとか、PTAだとか、その辺を網羅した形で、各種団体と11月いっぱいをめどに意見交換をする場をつくって、全町的な意見が反映できるように取り組んでいくということで今計画を立てているところですので、どうぞよろしくご理解のほどをお願いしたいと思えます。

○14番（美島盛秀君）

せんだって、教育委員会のほうから自治活動、地域の活性化に伴う講演会等の案内がありましたけれども、やはり今どこの市町村、あるいは都会でも、昨日一、昨日のテレビで放映されておりましたけれども、都会で、もう施設がなくて、50年、60年たった施設に入っている老人やお年寄りがいっぱいいるという放送がありました。

そういうようなことに対して、この伊仙町がこのヘルスリゾートアイランド構想ということで打ち出したということは非常に意義ある計画だと思っております。その中で、お年寄りだけを呼んでもどうしようもないのではないかと。

あるいは医療とか福祉とか、そういう面だけがよくなってもこの島の将来はどうなるのか。
あと今ある2,000haぐらいの伊仙町の土地、こういうあたりもしっかりと含んでやらないといけ
ない。

その中で農業への6次産業化ということもあります。

今日もミカンコミバエの件で説明がありましたけれども、やはり急にこういう非常事態も出てく
るわけです。

ですから、こういうことに伴って、その下に、伊仙町総合戦略の実現に向けた計画というのが5項
目あります。

これを一つ一つ織り込んだのが、この総合戦略だと思いますが、この予算内で、今回このC C R
Cによる地方創生交付金事業、この4,900万、この委託する内容において、どのような内容をコ
ンサル業務に計画をしているのか、コンサル業務、南西何とか言いましたけども、そことしかり
と打ち合わせができていますのかどうかを、まずお尋ねをいたします。

○企画課長（池田俊博君）

今の伊仙町の総合戦略、地方創生に関しての総合戦略においては、もう既に総合戦略の策定の事
業委託のほうは、おっしゃるとおり南西活性化センターのほうと委託契約を結んで、12月で策定す
る予定で行動はしているところです。

その町の総合戦略の中の一つとして、この伊仙町版、離島版C C R C事業という特化した事業の、
これからの計画を策定するのが、今回の補正で計上したこの事業でございます。

ある程度のその総合戦略の中で打ち合わせ等十分協議はしているところでございますが、まだこ
れも委託事業ということで、また本件が議決された暁には委託契約をさらにしなければいけないと
いうことで、公募型でもう一度委託契約を結ぶ予定にしております。

○14番（美島盛秀君）

今後、これを委託し、計画が策定をされ、そして答申される。

そしてそれが実行に向けて、28年度から、動くわけですが、それに伴って、その計画された事業
等、こういうのが町の財政に大きく関係に関連してくるわけですが、これは全額100%の補助で、委
託はできた、計画もできた。

今後のその事業を実施するにおいて、恐らく2分の1補助だろうと思われまますけれども、その残
りの2分の1、こういう財政的なシミュレーションはどういうふうにしてやるのか、あるいはその
事業一つ一つに対しての計画、そういうのが今できているのかどうか、予算的、財政的なシミュレ
ーション、ある一定的なことが計画されていたらお尋ねをいたします。

○総務課長（樺山 誠君）

今、シミュレーションは、はっきり言ってまだできていません。

なぜかといいますと、計画がしっかりできた後に、その計画に基づいて財政的にどうつけていく
かということ、計画ができた後にしっかり財政のヒアリングをしてまいりたいと思っているとこ

ろであります。

○14番（美島盛秀君）

まだできてないということですが、計画ができて、もちろん計画を先にやらなければいけないんですけど、しかし行政、あるいは町が、あるいは個人でももちろんです、家を建てるのには何年かかかって計画をしてやるわけですが、町は伊仙町の全体のそういうことを計画しなければいけない。

その財政シミュレーションはできないのに、予算的な見通しも立たないのに、計画だけは先に出す、私は逆じゃないかなと思います。

この26年度の座談会で説明をしてあるこの財政状況からすれば、これは平成23年度のですかね、伊仙町一番基金も少ない、そういうような状況で、今後こういう事業をとってきてもできるのかどうか心配な点があります。

この、コンサル委託料は、もう無料同然で、どうぞ使ってくださいという国のお金ですから町に関係ないかもしれませんが、あと事業を計画したときには、必ず予算が伴ってきます。

こういうシミュレーションもしっかりとやっていかないといけないと思いますが、そういう計画をいつごろできて私たち、町民に、また議会に報告できるのか、そういう計画等、スケジュール等、計画があれば、お尋ねをいたします。

○総務課長（樺山 誠君）

地方創生の計画が12月をめどにつくり上げた中で、議会に報告をしていかなきゃいけないということになっておりますので、地方創生の計画ができたときに議会にまずは報告をします。

その前に財政計画の中に盛り込んでいる具体的な事業がありましたら、その中で、財政がしっかり担保されているかどうかというのも確認しながら、その計画を議会に報告できるようにしていきたいと思っています。

ですから、地方創生の計画ができた後に、あとそれより具体的な事業が入ってくるのであれば、それに関する事業、財政関係のヒアリングをちゃんとまたしていかなきゃいけないと思いますので、年明けたころには、またしっかりした説明ができるかなと思っています。

○14番（美島盛秀君）

質問が前後したかと思いますが、まち・ひと・しごと創生法について、その伊仙町が今計画している離島版C C R Cの推進による地方創生交付金事業による事業分野、これは人材育成、移住分野と、これについての今のこの4,832万2,000円ということによろしいですか。

○企画課長（池田俊博君）

この交付金事業の申請の段階において、人材育成、事業分野が5つりました。

人材育成と移住分野、地域産業分野、あと農林水産業分野、観光分野、まちづくり分野ということで5分野がありましたが、伊仙町においては、これは人材育成、移住分野という形で一応申請したことになります。

○14番（美島盛秀君）

人材育成、あるいは移住分野、これには総合的な意味も含まれているとは思いますが。

しかし、この伊仙町の総合戦略、これを見てみるといろんな構想があります。

この総合戦略の中に含めて、今後この予算の中にこの5つの項目も、今後は計画入るわけですか、お尋ねいたします。

○企画課長（池田俊博君）

ただいまの質問ですけど、その5つの分野、全てが地方創生に絡めた分野に関しては、地方創生の総合戦略のほうで今協議し、12月にそれが策定できる状況に持っていきたいと思っています。

またその中で、このCCR事業というのは、その総合戦略の中の一つの事業ということで、他にはまだ総合戦略の中には、農業の分野とか観光の分野とか、あとまちづくりの分野のほうは全て含まれることになっています。

○14番（美島盛秀君）

そうしますと、その総合戦略は12月いっぱいだったですか、1月ごろには報告できるということですが、この5項目、これを計画、総合戦略の中に入れる。

そうすると、その事業一つ一つがどれぐらいの予算になるか、将来的な見通し、そういうのもこの総合戦略の中に入ってくると思いますけれども、そういう財政的なシミュレーション、そういうのをしっかりと、今後この総合戦略が伊仙町の将来、未来永劫に子や孫に残せるような立派な総合戦略を策定していただきたいと、こういうことを希望して質疑を終わります。

○企画課長（池田俊博君）

平成28年度の国の当初予算の概算要求では、地方創生の進化のための新型交付金として1,080億円準備してございます。

また、その他にしても、まちとしごと創生事業費ということで、地方財政計画の中には1兆円の財源を準備してあるということです。

さらに、各省庁関係の中においても、まち・ひと・しごと総合戦略の基本の目標の内訳として、4つの事業形態として、総額で7,763億円の国のほうで予算措置をするということですので、いろいろなこういうような、今伊仙町の中でやっている事業をここのほうに持っていけるような方向づけをしながら、財政のほうに負担がかからないようなやり方で計画できていければいいと思っています。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（琉理人君）

他に質疑ございませんか。

○3番（牧徳久君）

平成27年第4回伊仙町議会臨時議会において質疑をいたします。

先ほどから美島議員が質疑をいたしておりますが、同じく7ページの離島版CCR推進による地方創生交付金事業費の中の13の委託料についてお伺いしますが、先般、配られたこの内容については、まず1番目に、集落と市場のニーズ調査分析に1,072万円とありますが、まずこれは、この前の

説明会では、町長は成田市と姉妹都市みたいな感じで結べて、そこを中心にターゲットとして調査するということでしたが、これについては、成田市も含めて、関西圏にも郷友会が多数いらっしゃるわけですが、この首都東京圏と①に書いてありますが、主にこれは東京圏だけが該当するのか、関西方面あたりも該当するのか、まず1点、これをお伺いしてみたいなど。

○企画課長（池田俊博君）

この事業の計画書を上げる段階においては、首都東京のほうの人口というか、人間を地方のほうに引き寄せるといって一応、形としては捉えてありますが、伊仙町としては、それぞれの町の考え方とかそういうのがございまして、伊仙町のほうとしては伊仙町の出身者、方々をまず呼び込めるような形でやりたいという思いがございまして、町の出身者で構成されているきょうゆう会とか郷友会友会、また同人会みたいところをまた最初のほうにやっていけるような取り組みをしていきたいと思っています。

○3番（牧 徳久君）

そうすれば、この件については、関西圏も含まれる、中部あたり、名古屋あたりも含めて、東京首都圏だけじゃなくてもよろしいというわけですね。

○企画課長（池田俊博君）

おっしゃるとおり考えてよろしいと思います。

○3番（牧 徳久君）

次に、このコンサル委託料が4,032万2,000円あって、今さっきのニーズ調査が1,072万円、この次にモデル集落のコンパクトビレッジづくりCCRCのモデル事業として1,766万9,000円組まれているわけですが、例えば、この委託料としてコンサルタント会社にこれを委託しますと、ここに書いてある地域包括ケアの体制づくり、臨時の人件費、保健師・介護士の人件費、旅費とか、こういったところは、この委託したコンサルタントからこの人件費は支払われるのか、どういうことになっているのかお伺いします。

○企画課長（池田俊博君）

ただいまのご指摘ですけど、コンサルタントの委託料としながらも、上のほうにあります3番目の地元調査関係とかは地元の方々のほうに、委託会社のほうから地元の方々を選定していただいて調査をしてもらうとか、また教材関係とかそういうようなバスの購入もありますが、そのバスの人件費とか、あとは教材関係のICTとか、そういうのは委託料として支払ってはいませんが、その委託が町内業者とかでできるような体制づくりはしていきたいと思っています。

○3番（牧 徳久君）

わかりました。

それと、あと高度な保健指導の人材育成環境構築には、1,193万3,000円入っているわけですが、これに出産子育て分野とありますが、子育て分野においては、どのようなことをされるのですか。

○企画課長（池田俊博君）

この中で出産子育て分野ということで予算計上してありますけど、その中で東京圏の人々を町のほうに呼び込むという形で、出産でしたら、保育士さんなど求められている人材を伊仙町に持ってくることはできないのかというような、その人材の交流を図れるような、人材育成の関係でこれやって、どうすれば伊仙町のほうにそういうような資格を持った方々を伊仙町に移住できるかという、そういうような取り組みのほうをやっていく調査のほうでございます。

○3番（牧 徳久君）

ということで1、2、3合わせて4,032万2,000円ですが、コンサル任せじゃなくて、この中身を充実したものにしていただきたいし、またこれに書いたとおり、これをすばらしいことを書いてありますが、これをぜひ実現していただきたい。

コンサルにただ金を流すだけじゃなくて、コンタクトをちゃんと打ち合わせして進めていただきたいと思います。

あと、次の備品購入費のこのバスの公用車購入ですが、このバスは何台ですかね、2台ですか。

○企画課長（池田俊博君）

今ここに最初の当初の段階での計画では、29人乗りの1台という形では計上してございますが、これからの教育部局とか、あと保健センター、包括支援センター等との協議によって、伊仙町に合ったバスのあり方、10人乗りを2台購入できるとか、そういうのが、またこれから打ち合わせしていかうかと考えているところでございます。

○3番（牧 徳久君）

バスにしても、この29人乗りだと大型免許も必要だし、もっと小型化すれば大型免許がなくても対応できるということで、一般の介護包括にいらっしゃる職員でも乗れるわけですので、なるべくだったら2台あたり購入して大型免許も要らないほうが誰でも乗れるということではないかと思えます。

それで、このバスはどこが管理するのでしょうか。

○企画課長（池田俊博君）

今考えているのは、これは教育関係と地域とのつなぎをするということで、包括のほうにするか、教育委員会のほうにさせていただくかということは、またこれからまた協議していきたいと思っています。

どちらが一番よりこの活動の範囲が広がるような方策ができればいいと思っております。

○3番（牧 徳久君）

ぜひこのバスは2台あたり購入して、教育委員会あたりとか、介護、あそこの包括センターあたりが利用できるようにしたらいいのではないかと考えておりますので、ぜひ2台購入、したほうがいいんじゃないかと思えますので、お願いします。

○議長（琉 理人君）

他に質疑ございませんか。

○4番（上木千恵造君）

先ほどの牧議員の質問にもありましたけれども、先般の特別委員会の説明で総務課長のほうから専門の保健師さんとか介護士さんとか、そういう方を呼んで、この事業費の中で、全員移動費等をお支払いして実質に取り組んでいただきましたけども、それはもうそのまま行うわけですよ。

○企画課長（池田俊博君）

そのとおりでございます。

○4番（上木千恵造君）

このモデル事業については、3月で終わりということですか。

それ以降はまだ計画は立っていないということですか。

○企画課長（池田俊博君）

今の予算の計上の中にしてあります事業に関しては、3月のほうで終わるということで、これができれば4月のほうから先のほうに関しては、また地方創生の総合戦略の中にまたこれが組み込めるような体制はやっていきたいと思っております。

○4番（上木千恵造君）

その呼ばれる方の人材についても、ある程度確保できる目途がついていらっしゃいますかね。

○企画課長（池田俊博君）

今この事業をこれからやるところでありますので、人材確保のほうを募集等は、また委託業者等々とまた相談しながらやっていきたいと思っております。

○議長（琉 理人君）

他に質疑ございませんか。

○2番（岡林剛也君）

総合戦略の中のCCRCですが、この予算はほとんどCCRC絡みですけど、その中でCCRCの主体はどこになりますか。

○企画課長（池田俊博君）

主体というのは伊仙町自体が主体となるということで、伊仙町役場のほうでやって、各課のほうに、その持ち場の仕事が入っていくと思います。

○2番（岡林剛也君）

ほとんどが保健福祉課管轄だと思いますが、その中で専門チームみたいなのはもう立ち上げられているのでしょうか。

○保健福祉課長（松田一郎君）

今の岡林議員の、専門分野を立ち上げているかということですが、この3月までの中で事業の経過を見ながら、状況を見ながら、できればそういった体制をつくりながら、来年の4月以降の組織づくりというものをやっぱり目指さなければいけませんので、多分包括の中で主体的になると思います。

保健師に関しては保健センターですが、継続なる地域包括ケアシステムをつくるためには、現在の保健福祉課の中にある包括支援センターのほうで主体的に取り組んでいこうかと考えております。

3月はそういった姿を見せなければ、来年の4月以降の体制づくりについても無理だと思っておりますので、この5カ月間の中でそういった地域包括ケアシステムに向けての体制づくりというのを進めていきたいと思っております。

○2番（岡林剛也君）

わかりました。この予算の資料ニーズの調査分析とか委託するわけですけども、その調査ニーズは大体いつごろまでに終わらせる予定ですかね。

○企画課長（池田俊博君）

まだプロポーザルの募集をしている段階ですので、それは委託契約をしながら、いつまでの段階で終わらせるというのは、またこれから決めていくところではありますが、このCCRCの事業の計画のほうは3月いっぱいまでで事業が終了するところで、最終的には3月には皆様に報告できるものだと思っております。

○2番（岡林剛也君）

この間の特別委員会の答弁では、もう4月から事業を始めると。

3月31日までの調査とかやって、それからもうほとんど白紙の状態ですが、そこから4月からこの事業が本格的に始められると思いませんか。

○企画課長（池田俊博君）

その4月から事業を始めようという計画を立てているのがこの計画でございますので、これ、今4月から始められる事業をいかに選別していくか、そういうこともこの委託の中に入っていくということです。

できる分野から順次していくと、事業自体は計画5年ぐらいの計画ですので。

そして最終段階がどうなるのかというので計画は策定していくと思っております。

○2番（岡林剛也君）

その最終段階は、大体どのようなイメージになるか、これは町民とかにも示さないといけないと思っておりますが、ちょっとそれを説明してもらえますか。

○町長（大久保明君）

前回、特別委員会の中で、このCCRCと総合戦略の位置づけが判然としないということでした。

その中であくまでも総合戦略の中の一部の保健福祉、そして人材育成分野という形での今回のこの応募に合った、移住を含めてということでCCRCということで、今地方創生本部の中では一番の大きな切り札的な状況であります。

今全国で200以上の自治体がこのことを応募しているわけでありますから、そういったことを今説明いたしました。

そして、保健福祉部関係の地域包括支援センターを中心に、昨日の経済委員会でも話したのは、

各集落に今徳之島3カ町が地域包括支援センターとさわやかサロンという形で、伊仙町では24集落があつて地域集落の活性化に寄与していますので、そういった関係の今回のこの上乗せ交付金の中にありますが、そういうことを活用して、集落で今のように健康で集落が子どもも含めた形で、そして小学校の校区を中心にやっていくためにはどうしたらいいかという形で、ではその移住というのはどうなるかということでもあります。

それは、今CCRCはよくわかりにくいから、地方創生本部の中では「生涯活躍のまち」というふうに銘打って、新しい名称をつくりました。

ですから、これは先ほど成田市という話が出たのは、これは成田市と以前、姉妹都市計画という話があつたので、東京圏でそういう関係のある、コネクションのある自治体がたまたま成田市だったということで、この前ああいうふうに言っていましたが、これはまた向こう側との正式な交渉はしていない状況です。

もちろん、その出身者は関西のほうが多いわけですから、その方々が帰ってきて、まず短期間生活したりしていくための住宅政策を、これは今回の上乗せ交付金と別に、今28年度事業で、3地域で今やろうと考えていますので、そういうことを年間、ものすごい人が島に来るということは、最初は非常に難しいと思いますけど、そういう受け入れ体制をやっていくためには、町民総意で、それこそオール伊仙町でそれをやっていくということで、その核は集落でやっていくというふうに今考えております。

ですから、具体的に4月から早速動いていくということは、形ではありませんけれども、今東京圏で20代、30代の人たちも地方に移住したいという、国のアンケート結果で出ていますので、これは老若男女問わず島に移住できるような仕組みが一番大事であると思います。

そうすると、高齢者の方々は農業をしたり、釣りが好きな人は釣りをしたりと、いろんな、資格のある人は資格を活用していくとかいうことなどを伊仙町が大々的にアピールしていくということが、まず必要だと思います。

そのためのいろんな、先ほど、ちょっと話が長くなりますけども、各省庁が28年度予算に地方創生分野で今積み上げた予算が7,000億を超しております。

その中にはいろんな農業分野での新規就農者対策として300億以上の予算も積まれておりますので、この補助率がまだ発表されておられません。

この一括交付金は2分の1補助で、その交付金、伊仙町にまだどれだけ来るかわかりませんが、それとこの、これまだはつきりしませんけども、事業を一括交付金と各省庁が出した交付金を合わせて同じ事業でやっていけば補助率は高くなるのではないかという、今話も出ておりますので、そういうことをうまく連携しながらやっていくというふうな財政シミュレーションができればと思っております。

もう一つは、この前、説明したと思いますけれども、国が地方創生本部の中で、今200以上の自治体が応募している中で、全国で5自治体をモデル地区と、地方創生のその地方への移住のモデル地

区にするということは、これは報道でも出ておりますので、そのモデル地区ということは、どういふことかということはまだ明確にはありませんけれども、実験的な移住活動を、事業を国が責任を持ってやっていくとか、そういうことになる可能性もあるわけです。

ですから、伊仙町がそういう事業にあえて申請して挑戦していくということで、それが獲得できたら、非常に財政面では負担なく、負担を減らしていろんなことができるだろうと今考えておりますので、これはまだ決まった話ではありませんけど、そういうことを目標としてやっていくと。

そして何よりも集落の地域包括支援センターで、包括支援システムの中で、高齢者が元気になっていくと。ここは長寿の島であると。あの島に行けば元気で長生きができるということ、多くの都会の人たち、出身者の方々に訴えていって、この島に来ればいろんな伝統文化もあると。

あの島に行ったけれども、全然もう幸せになれないと、来てよかったのかなと思われなように、ああ行ってよかったと思われるような地区にするのが、地方創生の一番の重要な点であると考えておりますので、そこには何よりももてなすという気持ち、そういうものがあって、この町を地域がアイデアを出して、そして多くの人たちを呼び込むというふうな意味での戦略になると思います。

そういう戦略を出して、そして国が納得するような戦略を出したところには、今言っているように、ある意味では地域間競争になりますので、そういうのを何としても勝ち取っていきたいと今考えております。

財政の問題が必ず出てきますけれども、それはいろんな形で優先順位をつけながらやっていきたいと思っております。

ただこれから一番重要な問題は、このまま行けば、日本の国は地方消滅ですけれども、地方消滅イコール東京、もう国家の消滅につながっていくという、これ本当にこれが20年後、30年後の将来考えてみたら、東京にあれだけの人が集まって、さらに高齢者がいっぱいになったら、地方はどんどんどんどん若者が、今まで以上に東京に吸収されていかざるを得ないわけですから、国が考えているのは、出身者だけではなくて、多くの高齢者の方々、それはひとり住まいとか、厳しい在宅の人たちも、地方に移って地方で雇用を生まない限り、出生率は絶対に上がらないというのはわかっているわけですから、そういう国の大きな課題がそうであると思いますので、そのことに伊仙町は遠い将来を見据えて、この事業の獲得に頑張っていきたいと考えている状況です。

○議長（琉 理人君）

岡林君、よろしいですか。

○2番（岡林剛也君）

この中枢となるのは保健福祉課を中心に、包括を中心として立ち上げていきたいという話でしたが、移動版CCRC、これは伊仙町が地方創生において、最初に取り組む事業でございますので、ぜひとも成功はさせてほしいです。

議会としても、このCCRCに関していえば、逐次、進捗率などを報告していただきたいと思うんですけども、そういうことは可能ですかね。

○企画課長（池田俊博君）

議会のほうでも特別委員会のほうを立ち上げてございますので、またその特別委員会のほうには逐次報告ができるような体制づくりはやっていきたいと思えます。

また事あるたびに、特別委員会のみならず議員の皆様方にはまた報告できるような体制はしていきたいと思っています。

○2番（岡林剛也君）

町長にお尋ねしますが、この事業の最終的な大体目標を、何人ぐらい移住させてきたいのかという、そういうのはありますか。

○町長（大久保明君）

今、南西活性化センターと人口シミュレーションを協議している中で、人口が今伊仙町、社会的な人口はこの2年間、30人ぐらい増えているわけです。

ただ全体としては、70人、80人、50人ぐらい、ちょっと人口が減ってっております。

今のシミュレーションをした場合、要するに子どもがどれだけ生まれていくかということを考えていくということと、それから、これから亡くなる人が、これから10年間ぐらいは亡くなる人は大体、今110人か120人前後ですけども、その少し増えるような状況で亡くなる人が出てきますので、そういうのを考えてみたときに、人口を維持するとしたら、毎年、最低やっぱり50～60人ぐらいの移住があれば人口の維持はできると思っておりますので、50人の移住ということは、非常に難しいと思うかもしれませんが、今は毎年、伊仙町に、今町民生活課で調査していますけど、この十数年、約70人、80人の人がIターンなりUターンの方がいるわけです。

そしてUターンの人もそれ以上に帰りたいという人たちがいるわけです。

その人たちが来ることができないのは、やっぱり住宅問題が一番でありますので、集落を活性化して出身者を中心に、そしてもちろん首都圏で移住したい人たちも含めていけば、今60人、70人のUターンの方々要るわけです。

それを倍来ると考えたら、人口の維持というのは、むしろ微増というのは可能ではないかと思っております。

年間、これいろいろ議論してシミュレーションしなければわかりませんが、今人口ビジョンは現状を維持するという形で出そうと考えております。

○2番（岡林剛也君）

申請書に書いてある計画もすばらしいので、5,000万予算取って、残ったのがバス2台とかならないように、ぜひ頑張ってもらいたいと思えます。

以上で質問を終わります。

○議長（琉理人君）

他に質疑ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

質疑なしと認めます。

これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論、ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

討論なしと認めます。これで討論を終わります。

これから、議案第60号、平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）を採決します。

お諮りします。本案は、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（琉 理人君）

異議なしと認めます。したがって、議案第60号、平成27年度伊仙町一般会計補正予算（第7号）は、原案のとおり可決されました。

これで本日の日程は全部終了しました。

会議を閉じます。

平成27年第4回伊仙町議会臨時会を閉会します。お疲れ様でした。

閉 会 午前11時10分

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

伊仙町議会議長 琉 理 人

伊仙町議会議員 牧 徳 久

伊仙町議会議員 上 木 千恵造